



NO.896

2012, 12, 2

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F 四三三・四四五七

いじめ」問題を解決し、競争教育をただし、教育への政治支配に反対

子どもの「いじめ自殺」が各地でおき、多くの国民が心を痛めています。教育委員会や学校による隠蔽(いんぺい)や放置も重大な問題です。「いじめ」問題を解決するために、力をあわせて奮闘しましょう。

一つは、子どもをテスト競争でふるいにかける、異常な競争教育です。

この体制のもとでは「できない子」は劣等感がうえつけられ、勉強を投げ出す子どもも増えていきます。「できる子」は早く答えを出すことを求められ、深く考えることを嫌がるようになりました。子どもたちの人間関係は希薄になり、孤独を感じている子どもの割合は29.8%と、イギリスの5.4%など世界の国々と比べ飛びぬけて高い数値です。

子どもたちはストレスをため、これが「いじめ」の背景にもなっています。

もう一つは、政治による教育への不当な権力的介入です。国一教育委員会―学校―教員が、縦のラインのような上意下達の体制となり、教育委員会が形骸化し、学校現場まで事なかれ主義がはびこりました。先生たちは上から数値目標達成が指示され、子どもよりも上の顔色をうかがうような状態に

おしこめられています。こうしたなかで、「いじめ」解決に必要な教職員の連帯や時間も奪われてきました。

競争と政治支配という体制をやめ、教育は子どもの成長・発達、人格の完成のためにあるという日本国憲法や子どもの権利条約の精神を生かし、教育を再建することです。

「いじめ」を解決できる学校、体制が必要ですよ

「いじめ」問題への政治的対応はきわめて不十分で、「いじめ半減」の数値目標でいじめ隠しを助長するなどその誤りも重大です。

●子どもの命が最優先の原則を確立
学校のどんな都合より子どもの命が優先されることを明確にします。少しでも「いじめ」の可能性があれば教職員、保護者ぐるみで対応することです。

●子どもたちに対等な人間関係を築く力を育てます……「いじめ」の解決には、子どもたちにトラブルを乗り越え、対等な人間関係を築く力を育てることが不可欠です。そうした力量の形成を学校教育の柱に位置づけることです

●「厳罰主義」でなく、加害者が心から反省する教育こそ必要です……「厳罰主義」はいじめの子の屈折した心をさらにゆがめます。「いじめ」に走る理由を探り、加害者が心から反省し「いじめ」をやめるまで対応しきることを重視すべきです

●「いじめ」を解決する体制が必要ですよ
教職員の「多忙化」解消、保健室の先生の複数配置、カウンセラーの増員をすすめるとともに、児童相談所の拡充など極めて深刻な「いじめ」への体制整備が必要です。

●「いじめ」の深刻化の背景にある問題の解決をはからなければなりません
「いじめ」の深刻化の背景には、子どもたちのストレスの強まりがあります。過度の競争教育は、子どもたちに大きなストレスをあたえています。さらに、社会全体に弱肉強食の風潮、立場の弱い人々を攻撃する風潮などがつくられていくことも、「いじめ」の深刻化の重大な背景になっています。これらの問題を一つ一つ解決する努力が求められています

●競争教育を一掃し、深く考える力や人間への信頼感を育むことです
競争教育を止める……子どもたちをテストにおいて、競争によって序列化をはかる過度な競争教育こそ、教育を荒廃させている最大の元凶です。

●競争教育を一掃し、深く考える力や人間への信頼感を育むことです
競争教育を一掃し、すべての子どもに物事が分かるまで教え、助け合いながら学ぶことを通じて、深く考える力を

つけられる教育にします。主権者としての人格の完成を教育の根本目標として、しっかりとすすめます。

●全国学力テストを中止：
全国学力テストや数値目標による管理など教育を劣化させてきた施策を中止する必要がありす。

●高校・大学の入試制度を見直し……
高校入試の存在や1点差できまる大学入試など世界に例がない競争的制度の見直しを進めましょう。

●教育への政治支配に反対し、保護者、教職員、住民参加の学校づくりをすすめることです

●教育への政治支配をやめさせる。
教育への政治支配、権力的介入をつよめ、「君が代」口元チェックなど人間性をふみにじる暴挙が、報告されています。

●民主的な学校運営、住民参加の学校づくりこそ
教育委員会を公選にし、住民の声に耳を傾け、透明性の高い組織に改革し。学校は子ども・保護者・教職員の三者で教育を創意工夫してすすめるようにし、学校への住民参加も大切にすることがもとめられます。

流水

